

生徒が選んだ場面〔カード〕を使って 読み取る「走れメロス」

「読書へのアニメーション」から発想を得て

群馬県桐生市立南中学校

金崎 豊彦

一 生徒が選んだ場面〔カード〕とは

条件にあわせて生徒が文章中からある場面を選び、書き写したカードのことである。これは『読書へのアニメーション』の作戦カードからヒントを得た。これを使ってあらすじをつかませたり、登場人物の心情や主題に迫らせる手段として活用する。また生徒自身が選んだ場面ということから、学習への意欲や関心を高める効果もねらいとしている。

二 『読書へのアニメーション』から 発想を得て

その趣旨を思えば、そのまま授業に取り入れるようなことがあつてはならない。しかし授業改善を考えたとき、『読書へのアニメーション』は実に多くのヒントを与えてくれる。今回は先のカードも含め、その考え方や実活動（作戦）から得た発想を、授業「走れメロス」における次のねらいの手だてとした。

○ 読んだことを内面化させ、より深い読み取りができるようにする。
○ 読むことの楽しさを実感させる。

三 授業実践の内容

ここでは特にカードを使った部分を中心に、二・四・五時間目について取り上げる。

(1) 二時間目

本時の学習目標

場面の变化や登場人物の心情の変化を確かめ、あらすじをより深くとらえる。

① カード作り

前時（一時間目）に全文を通読し、いわゆる「三色ボールペン」で線引きをさせた。その部分を中心に、自分が最も気に入った場面（二文以内）を選ばせる。そして配布されたカードに、その場面を書き写させる。

② 様々な場面を読み取る活動

数名に前へ出てきてもらい、その生徒に（一旦集めておいた）カードを一枚ずつ無作為に配布する。そして、「カードを黙読しなさい。さて、あなたが持っている場面の前に、どんな出来事がありましたか、話してもらいます」と指示をする。この学習活動は、『読書へのアニメーション』の「作戦35」から発想を得た。

一人ずつ自分の持っているカードの場面を読み上げ、「前にどんな出来事があったか」を発表させる。一人の発表が終わるごとに、他の生徒から意見をもらったり助言をもらうなどした。話題は、他の場面や様々な登場人物についてもひろがっていく。

③ あらすじを読み取る活動

次は八〜十名の班になり、あらすじを追ってもらおう。全員にカードを一枚ずつ配布する。そして各班でカードを見せ合い、場面順に並べるといふ活動をする。これは「作戦12」から発想を得た。場面順に並べたものを模造紙に貼り、その順番があつてどうかどうか、ひ

と班ずつ学級全体で発表させ、他の班の生徒と意見交換させた。特にシラクスを目指すメロスの言動に、生徒は悪戦苦闘していた。なおすべての班が終わった後、教科書を見て、順番があっているかどうかを確かめさせた。

(2) 四時間目

本時の学習目標

叙述の内容から登場人物をとらえ、自分の考えを持つ。

① カード作り

前時(三時間目)に主要な登場人物三人(メロス・セリヌンティウス・ディオニス)について、大まかに読み取らせた。その後、それぞれの登場人物の言動が描かれている一場面を各自で選び、カードに記入してもらった。このカードを本時は使う。

② 登場人物を「まずは」読み取る活動

この時間は、主に小グループ(四人前後)で活動する。活動の流れは次の通りである。

○(集めてある)メロスのカードから、各班一枚持つて行く。

○そのカードを班員全員で音読。

○カードから、メロスについて気づいたことや感じたことなどを出し合い、班別ワークシートにメモしていく。

○出し合った内容をもとにし、「メロスは

「…だ」の「…」(別紙)にあてはまることばを考え、記入する。

この後同じ活動を、メロスについてももう一場面と、セリヌンティウス、ディオニスについておこなった。なおこの学習活動は、「作戦17」から発想を得た。

(3) 五時間目

本時の学習目標

別の視点(叙述の内容)から登場人物をあらたにとらえ、自分の考えを深める。

① カード作り

本時は、生徒がイメージする人物像とは違う一面や言動の背景に気づかせるカードが必要となる。そこで、生徒にその場面を授業中に見つけ出させ、書かせることにする。

② 登場人物を「もつと」読み取る活動

前時各班で書いた「…」の用紙を、黒板に貼ってもらう。するとメロス・セリヌンティウスに対する内容は好意的なものだが、ディオニスに対しては批判的な内容が出された。しかしカード「孤独がわからぬ」から考えた班からは、同情的な内容も出された。そこで同じように別の一面を感じるような場面(疑うのが「おまえたちだ」等を各班で探させ、カードにさせた。またメロスとセリヌンティ

ウスについても、生徒が持つ印象とは対比的な場面(人を殺して自分が生きる)等を探させ、カードにさせた。それらのカードを基に、あらたに気づいた心情や言動の背景などについて話し合わせた。

なお次時(六時間目)は、本時で気づいた内容を基に、登場人物三人の「対比・共通」をキーワードに学習活動をおこなった。

四 生徒の意見や感想から

○違う角度から見ると違う物語のような感じ。だからすぐくおもしろかった。

○人をどれだけ信用させるか。そしてどれだけ信用できるのかが大切なのだと、三人のことを考えて思った。悪い部分をきずなの力で変えることができるのだなと思った。

○メロス・セリヌンティウスも、一人ぼっちで孤独になってしまったら、ディオニスのように人を疑い、信じられなくなってしまう。それは私たちにもあると思いました。○走れメロスは、その人間の持つ醜さや美しさがよく表されていると思った。

かねざき とよひこ 昨年度は群馬県総合教育センターにおいて特別研修員として学び、国語をとおして多くの先生方とあらたなつながりを持つことができました。これからは楽しみます。